

教育実習の在り方について

—小学校教員養成における教育実習指導の充実について—

中田 晋介 青山 之典 古賀 一博 磯崎 哲夫
植田 敦三 見浦 佳奈

1. はじめに

昨今、学校教育に対する期待に応えるためには、教育活動の直接の担い手である教員に対する揺るぎない信頼を確立し、国際的にも教員の資質能力がより一層高いものとなるようにすることが極めて重要であるとされる¹⁾。そのため、教育養成を担う大学の附属小学校においても教育実習指導において、教員養成への取り組みが今以上に求められる。

大量退職の時代の今日において、マニュアル化しづらい現場固有の知や技術の継承が困難になる恐れのみならず、それによって組織が停滞する恐れがあると認識されるようになってきた。この点は、大学、附属学校も例外ではない。そのような状況の中で、これまでと同様に教育実習において指導の質を保持することは重要なことである。また、附属学校の状況とは別にこれまで以上に教育実習生の個に応じた教育実習指導が求められている。

そこで、本研究ではこのような状況に鑑み、先行研究を基に、教師に求められる知識について論究するとともに、そのような教師に必要な知識を獲得させるための教育実習におけるアプローチ方法について検討することを目的とする。

2. 教師知識について

(1) 教師知識とは

教師知識に関する研究は、正しい専門的知識を学習者にいかに分かりやすく教えるかということを目指して、主にアメリカで発展してきた。教師知識に関する研究の歴史を概観してみると、1960年代から70年代後半頃までは、行動科学的アプローチによって支えられた研究が主流であり、1980年代前半からは、認知心理学の発展にともなって授業の質的アプローチと認知心理学的アプローチによって支えられた研究へと移行していることがわかる²⁾。前者は、教師の授業実践に

におけるコミュニケーションのスタイルや行動様式に注目することによって、教授スキルを抽出することを目的とした研究であり、後者は行動科学的アプローチによって明らかにすることができなかった教師の認知過程を、スキーマや問題解決、熟達化の考え方を取り入れ、実証的に明らかにすることを目的とした研究である³⁾。

このように教師知識に関する研究が推進されるにつれて、教師知識は、知識の形態や表現様式において科学的な理論的知識とは性質の異なる実践的知識 (practical knowledge) であることが実証的に明らかにされた⁴⁾。それゆえ、ここではまず実践的知識の特徴を明らかにし、続いて、実践的知識である教師知識に焦点をあて、その特徴や本質について明らかにする。

(2) 実践的知識の特徴

教師知識とは実践的知識であることがこれまでの理論的・実証的研究から明らかにされているため、まず、実践的知識について歴史的視点から概観し、その特徴について挙げていくことにする。

佐藤らによると、教師の実践的知識に関する研究は、シュワブ (Schwab, J.) の「*The Practical* (実践的であること)」と題する一連の論文によって、理論的に行われたことに端を発し推進されたとしている⁵⁾。そもそも実践的知識に対する当初の見解は、非難・拒否されており世間一般に受け入れ難いのもであった。しかし、教師の思考パラダイムが変容され発達されていくにつれて、実践的知識が教師の専門的知識として有意義かつ論理的なものであると理解され始めるようになっていった。そして、さらに実践的知識に関する研究が推進されるにつれて、学級における教師の行動を形成する知識基礎 (knowledge base) の大部分を占める知識形態であるとの評価を受けるようになって

いった⁶⁾。

また、ハンダル (Handal, G.) やルーバス (Lauvas, P.) が、実践的知識について「教師の教育的な実践において『最も強固な決定的要因』である。」⁷⁾と述べ、教師の教授活動の重要な要素として位置づけていることから、授業実践において実践的知識が重要視されていることがうかがえる。

そして、エルバズやクランディニンらによって実践的知識の研究が実証的に進められ、その結果、教師の専門家としての知識を「個人的実践的知識」として定義づけている。佐藤は、クランディニンの考えをもとにして、個人的実践的知識について「授業の計画から評価にいたる授業実践を構成する活動のすべてを基礎づけ、個人という存在を構成する経験のすべてに組み込まれた知識である。そして、その知識は、職業的あるいは個人的な経験の歴史に由来し、その個人的な経験の歴史において理解される。」⁸⁾と整理している。

一方、ショーマン (Shulman, L.) によっても実践的知識について検討されており、「(実践的知識とは) 行動と直結した知識であるがゆえに、教師自身にも明瞭に自覚化されていない『暗黙知』の意味合いを含んでいる。また、特定の文脈と結びついた個人的な性格を持っており、言語によって抽象的、一般的に表現し難い知識である。」⁹⁾と述べている。

このような実践的知識の性質に関する研究は、後においても多くの研究者により検討されている。例えば、秋田らは、ショーン (Schön, D.) やスクリブナー (Scribner, S.) の研究結果を援用し、実践的知識の特徴として、以下の点を挙げている¹⁰⁾。

- ・問題自体が所与ではなく、問題の適切な定式化が解決を促進すること。
- ・アルゴリズムに従った論理的解決法よりも、状況にあわせて同じ種類の課題でもいろいろな形で柔軟に解決できること。
- ・行為してから考えるのではなく、行為しながら考えること。
- ・解決にとって構成的・機能的役割を果たすように問題解決システムに組み入れられていること。
- ・実践の場で獲得・生成され、領域固有・場面固有に働く知識であり、言語化した説明は難しく、本人にも自覚されない暗黙知のような性格をもっていること。

このように、実践的知識の捉え方は研究者にとって様々であるが、佐藤らはこれらの研究知見を総括し、実践的知識の特徴として以下の5点を挙げている¹¹⁾。

- ① 限られた文脈に依存した一種の経験的知識であり、機能的で柔軟な知識である。また、反省的思考

を通して既知の事柄を再発見したり解釈し直したりして得られる「熟考的知識」である。

- ② 特定の子どもの認知、特定の教材の内容、特定の教室の文脈に規定された「事例的知識」である。
- ③ 複数の領域の知識を統合し、複雑で複合的な状況の不確実性へと立ち向かう「総合的知識」である。
- ④ 顕在的な知識としてだけでなく、潜在的な知識としても機能し、直感やコツや即興として表れる「暗黙知」である。
- ⑤ 個性的な性格をもち、個人の経験に基礎を置く「個人的知識」である。

つまり、シュワブによって研究が推進され始めた実践的知識とは、多義的な意味合いを有していることが示されている。

3. カンファレンス的な学び

上記のように、教師の実践的知識とは多義的であり、複雑なことがわかる。このように複雑な知識を教育実習生へ伝えていくことが求められているが、その知識の適用範囲は、広く特定の場面に遭遇しないかぎり、必要のない知識と成りかねない。必要のない知識を教育実習において指導された場合、多くの教育実習生が使えない知識として受け取り、結局自分勝手な解釈と判断で行動することになるのではないだろうか。反対に、問題場面において教育実習生に対し、担当教師からの適切な指導・助言が行われると、その場に適した実践的知識の獲得・生成を行うことが可能ではないだろうか。

そこで、ここでは、実践的知識をより効果的に学ばせる方法としてカンファレンス的な学びに注目した。カンファレンス的な学びとは、教育実習生が子どもについての理解を深めると同時に子どもに向き合ったとき教育実習生の内部に発生してくる感覚や情動・感情を吟味しながら、自分自身の考え方を自己吟味させる学びである¹²⁾。つまり、実践的知識獲得において必要な、反省的思考を促す指導であり、教育実習生にとっては学びとなる。この学びの場を教育実習指導において設定し、教育実習生の学びについて検討を行うこととする。具体的には、①「教育実習生の生活指導場面での特徴」②「カンファレンス的な学びを取り入れた学級反省会と従来通りの学級反省会を行った学級での比較検討」を行うこととする。

4. 実証的研究の方法

(1) 目的

教育実習において教育実習生の生活指導場面での特徴について探るとともに、1日の終わりの学級反省会

においてカンファレンス的な学びを取り入れることにより、教育実習生の実習後の変容について検討することを目的とした。

(2) 方法

この実証的研究では、4つの学級の教育実習生の学級反省会での指導者の働きかけを従来行っていたものから、変更した。研究対象者は、2010年9月1日から10月7日まで附属小学校において教育実習を行った5週間実習生である。

本校の教育実習では、学級反省会の後、授業反省会を行っている。学級反省会では、学級担任が主導で行い、授業反省会は、教科担任が主導で行う。授業については、それぞれの専門性や授業を行う上で身に付けておくべき知識やスキルが存在する。そのため、授業反省会は、各教科において個人のスキル向上と教育実習生の反省の視点を明確にした指導を続けてきている。学級反省会での指導内容は、各担任に任されている部分が多く、担任のこれまでの経験から指導すべき内容を決定し、教育実習生に指導している状態である。教師の経験による指導の差が出やすい部分である。そこで、この学級反省会にカンファレンス的な学びを取り入れることにより、教師による経験の差をどの程度補完することができるのか、また、教育実習生の自己吟味による振り返りがどの程度可能なのか調査を行った。具体的には、学級反省会では、指導というよりも、それぞれの1日の反省を述べさせ、それについて教育実習生自身がどのように行動すれば良かったのか、自己吟味できるように振り返りの場を多く取り入れるようにした。

調査の方法は、4つの学級において各学級4名を無作為に抽出した実習生のアンケート記述の分析を行った。

(最終頁のアンケート参照)

5. 結果及び考察

(1) 教育実習生の生活指導場面での特徴

① 1週目から2週目

教育実習生は、実習当初受け身になりがちであり、児童へ指導するというに躊躇する場合がある。また、指導者としての心積もりができておらず、傍観者的に児童の様子を見守ることが多い。指導を促されてもなかなか実践にうつすことができない。2週間過ぎるころから児童へ指導を行える者も出てくるが、4週目を過ぎても指導ができない教育実習生も見受けられる。

教育実習生の指導は、担任教師の言動をまねるもの

が多く、模倣しながら試行錯誤している。以下に学級反省会時の具体的な遣り取りを示す。

例1)

S：今日の掃除時間に〇〇さんと〇〇くんが掃除をしていなかったの、なんで掃除しないのかと思いました。私が小学生のころは、掃除をするのが当たり前でした。そのあたりのことがわかっていないように思えます。

T：そうですね。なぜ掃除をしなければいけないかわかっていないのかもしれませんが。そのとき、先生はどのように声を掛けたのですか。

S：「掃除をした方がいいよ。」と声を掛けました。

T：それで子どもたちは掃除をしましたか。

S：掃除をしていたように思います。

T：先生の声かけで、明日もそのまま掃除すると思いますか。

S：しないかもしれません。

T：では、明日先生はどのように声を掛けてみますか。

S：…。

T：明日までに考えてみましょうか。

この反省会では、指導教師側からこうしてみたらどうですかという指導ではなく、自分自身で思考し、どのような手立てをうつと良いのか考えさせるようにしている。

② 4週目から5週目

このころになると、教育実習生も児童に対して積極的に関われるようになり、指導というものも意識されているように思われる。担任教師の学級を借りて実習していることを忘れがちであり、指導が通ることを経験すると全ての指導が通用すると考えてしまう教育実習生もいる。しかし、教育実習生によっては、どのように子どもたちと接すると良いのか日々考えながら、実践し、反省している教育実習生もいる。

例2)

S：給食のときに、しゃべってばかりで早く食べられない子がいるので、どうしたら早く食べるようになるのか考えて声を掛けてみました。今日は、早く食べないと他の子の迷惑になるよと声を掛け、早く食べた子を大きな声で褒めるようにしました。そうすると、〇〇君も早く食べてくれました。

T：では、先生の指導は正しかったのかな。

S：早く食べさせるという点では良かったのかもしれませんが、明日も同様に食べるかどうかは、わかりません。

T：毎日早く食べさせるのは難しいですよ。明日は、

どのように声を掛けてみますか。

S：私とその子に関係ができてきていると思うのでその子から離れた席で食べて、早く食べている子を大きな声で褒めてあげたいと思います。そして、その子も頑張っているねと声を掛けようと思います。

T：色々と考えているようですね。明日の報告を楽しみにしています。

以上のことから、教育実習生は、実習当初は、傍観的に実習に参加しているが、日が経つにつれて児童への指導も行えるようになってきている。また、児童や学級への批判的な見方をしていたものが、問題解決的な見方へと変化している。指導も、それぞれが明確な意図を持ち指導できるようになってくるようである。しかし、自分ならこのように指導するという代案を強固に主張する者もあらわれる。

(2) カンファレンス的な学びを取り入れた学級反省会と従来通りの学級反省会を行った学級との比較

実験群は、カンファレンス的な学びを取り入れた学級の教育実習生であり、統制群は従来通りの指導を行った学級の教育実習生である。アンケート項目を抜粋し結果について以下に示す。

①毎日の学級反省会の内容・方法に満足していますか。

表 1

	はい	いいえ
実験群	1 6	0
統制群	1 6	0

②授業反省会の内容・方法に満足していますか。

表 2

	はい	いいえ
実験群	1 6	0
統制群	1 6	0

③教育実習の日数は、適当だと思いますか。

表 3

	はい	いいえ
実験群	1 5	1
統制群	1 5	1

(いいえの理由)

実験群…もう 1～2 週間したい。

統制群…1ヶ月で良いのではないかと。

④各学級への教育実習生の配属数は、適当だと思いますか。

表 4

	はい	いいえ
実験群	1 5	1
統制群	1 5	1

(いいえの理由)

実験群…はじめ多いと思っていたが、慣れた。

統制群…少なくして欲しい。

量的な側面では実験群と統制群の差異は認められなかった。本校の指導において、多くの教育実習生が満足している様子が見える。③「教育実習の日数は適当だと思いますか」の項目において統制群の1名の実習生が1ヶ月で良いのではないかと記述しているが、多くの学生は適当な長さだと判断している。

次に、質的な側面を見るために、実習生の記述を検討する。

表 5 実験群の教育実習生 A の感想

今回の実習を通して良かったことは小学校という場所で実際に児童を相手にして5週間過ごせたことです。実習前には、指導案を作成するにしても授業を行うにしてもはっきりした相手もおらず、イメージも曖昧でした。実習では、その環境が一転し、実際の学校で実際の児童を相手に一人で授業を行う機会をいただき、児童のことを真剣に考え、日々苦勞しながら5週間で過ごせました。自分の中では、もっと考えれば良かったとか、まだ子どもたちのためにできたことがたくさんあったのになという思いがありますが、そのように考えられるようになったことが実習前の不安でいっぱい自分から成長できた証だと思います。

表 6 実験群の教育実習生 B の感想

おかしい言い方かもしれませんが、自分を見つめ直し、自分を知ったということが、とても大きかったです。教師という仕事は、常に自分と向き合うものだという事を少しかもしれませんが、実感できたと思います。

具体的には、子どもへの指導の仕方や、どのような接し方をすれば信頼関係を築くことができるのか、授業をする上で必要なことは何か、授業と生活

指導の関係性、授業外の支援の有用性など、書き切れないほど学んだことがあります。

先生方には本当にお世話になり、子どもたちにはたくさん助けてもらいました。附属小学校で実習することができ、本当に良かったです。ありがとうございました。

表7 実験群の教育実習生Cの感想

以前までの教師のイメージは、子どもの前に立ち指示し、子どもをひっぱっていかなければならないというものだったが、教師も常に子どもと一緒にやっていくことの大きさを学んだ。また、ほめることに関して、その段階の状況に応じたほめ方について学ぶことができた。

教育実習に入る前までは、まだ教師になりたいという思いが固まっていなかったが、附属小学校の先生方と出会い、クラスの子どもたちと出会い、また、実習のメンバーと毎日話しながらやっていくことで、5週間を終えて、小学校の先生になりたいと思うようになった。学んだことはたくさんある。それをわすれないように自分なりにまとめ、大事にしておきたいと思う。

以上のような所感から、実験群においては、反省的な思考がされていることがうかがえる。この5週間の教育実習と自分の成長について振り返ることができている。毎日のように自分自身の行動について振り返る場を設定し、課題を明らかにし、次はどのように行動するのか問いかけていた成果かもしれない。しかし、実験群全員がこのように記述しているわけではないので、カンファレンス的な学びが必ずしも有効と短絡的に考えることはできない。

とは言え、統制群の教育実習生の中の1人が実習期間が長いと感じていたが、実験群の中にはもう少し長い方が良かったと感じている者もいた。このことから、カンファレンス的な学びを取り入れることにより、実習に対する捉え方も変化する可能性があることは認められる。

ところで、ファーロング (Furlong, J) の調査によると、教育実習生は実習の始まりでは、「教師として振る舞う」(acting like a teacher) 傾向が強いが、次第に「教師のように考える」(thinking like a teacher) になることが重要であることが指摘されている¹³⁾。本調査からも第4～5週では、教育実習生の考え方も変容しており、このカンファレンス的な学びが、少なからず教育実習生の発達に影響しているとも考えられ

る。一方で、磯崎らの調査からは、教育実習は附属学校の教師にとっても教育実習生への指導・助言を通じて、自己を省察し、教師として専門的成長をする機会となっていることが指摘されている¹⁴⁾。

以上のように、教育実習におけるカンファレンス的な学びの導入は、教育実習生の思考スタイルの変容や指導教員の自己省察にとっても少なからず効果が認められる。

6. おわりに

今回の理論的研究において、教師の知識は、実践的であり、実践の場において獲得すべきものが多くあることが明らかとなった。その実践的知識の有効な獲得手段としてカンファレンス的な学びを取り入れた実証的研究を行った。実証的研究において、実験群・統制群では数量的な側面では差異は認められなかったけれども、実習生の記述に関しては違いが認められるものもあった。このカンファレンス的な学びの導入は、今後の教育実習指導の一つの指導方法となるのではないかと考える。今後は、分析の項目を細分化し、インタビュー調査なども交えて研究を行うことが求められるだろう。

引用文献

- 1) 中央教育審議会：「今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申)」、『中央教育審議会』, 2007. HP参照
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06071910/002.htm
- 2) 秋田喜代美：「教師の知識に関する研究動向」、『東京大学教育学部紀要』, 第32巻, 221-222頁, 1992.
- 3) 同上書, 221-222頁.
- 4) Perc Marland.: *Teaching Effectiveness and Teacher Development: Towards A New Knowledge Base*, p.166, 2001, Kluwer Academic Publishers.
- 5) 佐藤 学, 岩川直樹, 秋田喜代美：「教師の実践的思考に関する研究(1) — 熟練教師と初任教師のモニタリングの比較を中心に」, 『東京大学教育学部紀要』, 第30巻, 177頁, 1990.
- 6) *op.cit.* 3)
- 7) Handal, G., & Lauvas, P.: *Promoting reflective teaching: Supervision in practice*, Milton Keynes, SRHE and Open University Educational Enterprise, p.9, 1987.
- 8) 佐藤 学：『教育方法学』, 岩波書店, 147頁, 1996.

9) Shulman, L.: *Knowledge and Teaching: Foundations of the new reform*. Harvard Educational Review, vol.57, pp.1-22, 1987.

10) 秋田喜代美, 佐藤 学, 岩川直樹: 「教師の授業に関する実践的知識の成長—熟練教師と初任教師の比較検討」, 『発達心理学研究』, 第2巻, 第2号, 88-89頁, 1991.

11) 佐藤 前掲書7), 147頁.

12) 矢野博之: 「教師の教育内容知識に関する研究の動向—社会科を中心として」, 『東京大学大学院教育

学研究科紀要』, 第38巻, 288頁, 1998.

13) Furlong, J., Commentary, In Allsop, T.& Benson, A., *Mentoring for Science Teachers*, Open University Press, p.116, 1977.

14) 磯崎哲夫, 磯崎尚子, 木原成一郎, 「教育実習に対する国立大学附属学校指導教官と教育実習生の意識調査—教育実習におけるメンタリングの可能性を探る」, 『日本教科教育学会誌』, 第25巻, 第2号, 21-30頁, 2002.

平成22年9月1日～10月7日

「小学校教育実習」に関するアンケート

広島大学附属小学校

このアンケート調査は、教育実習の業務を把握し、次回以降の教育実習を改善する際の資料とするために行うものです。調査の結果を、この目的以外に使用することはありません。また、皆さんの教育実習の経緯にも一切関係ありません。皆さんの安心なご意見、ご感想をお聞かせください。

回答日	月	日	曜日	記履学年	部	年
氏名						

① 次の各質問に対して、選択肢の中から一つを選んで○で囲んでください。また、必要に応じて、記述してください。

1 教育実習の内容や方法に関して
 ① 学部が行ったオリエンテーションの内容・方法に満足していますが。
 (ア はい イ いいえ ウ どちらともいえない)
 ※ 要望事項があれば、書いてください。

② 附属学校(本校)が行った全体オリエンテーションの内容・方法に満足していますか。
 (ア はい イ いいえ ウ どちらともいえない)
 ※ 要望事項があれば、書いてください。

③ 附属学校(本校)が行った学級でのオリエンテーションの内容・方法に満足していますか。
 (ア はい イ いいえ ウ どちらともいえない)
 ※ 要望事項があれば、書いてください。

④ あなたは、教育実習を行うにあたり、大学の各教科の先生の指導をグループ・個人合わせて、それぞれ何回受けましたが、

(記入上の注意)

○ 指導を受けた回数、グループで指導を受けたもの、個人で指導を受けたものを、両方を合わせた回数を記入してください。
 ○ 指導を受けなかった場合は、0回と書いてください。
 ○ 自分が教育実習をしなかった教科は、空欄にしておいてください。
 ○ 記履学年によって、教育課程にない教科があります。その場合は、欄ごとで潰してください。
 例 (記履学年が3年生で時間割に家庭科がない場合)
 家庭科→→→→→)回

《大学の先生(本校教諭ではありません)に指導を受けた回数》

国語科・・・()回	社会科・・・()回
算数科・・・()回	理科・・・()回
生活科・・・()回	音楽科・・・()回
道徳科・・・()回	家庭科・・・()回
体育科・・・()回	総合学習・・・()回
芸術・・・()回	学校活動・・・()回

2 教育実習の条件整備に関して
 ① 教育実習の時間は、現状で適切だと思いますか。
 (ア はい イ いいえ ウ どちらともいえない)
 ※ 要望事項があれば、書いてください。

② 教育実習の日は、現状で適切だと思いますか。
 (ア はい イ いいえ ウ どちらともいえない)
 ※ 要望事項があれば、書いてください。

③ 各学級への教育実習生の配属数は、現状で適切だと思いますか。
 (ア はい イ いいえ ウ どちらともいえない)
 ※ 要望事項があれば、書いてください。

④ 教育実習に関わる教材・教具(図書・指導書・視覚覚醒器、等)は十分でしたが。
 (ア はい イ いいえ ウ どちらともいえない)
 ※ 要望事項があれば、書いてください。

⑤ 生徒指導において、特に学べたものは何ですか。
 1 パラスタの書き方の指導について 2 読法について
 3 前下の書き方について 4 教諭や友だちへの言葉づかいについて
 5 児童間のトラブルへの対処方法
 6 その他()

⑥ 学校経営について、特に学べたものは何ですか。
 1 校長の役割 2 学校の校務分掌 3 学校の経営方針
 4 その他()

3 あなたが、小学校教育実習をとおして「成長した」「学んだ」と思うことについて記述してください。

⑦ 「指導講話」の内容・方法に満足していますか。
 (ア はい イ いいえ ウ どちらともいえない)
 ※ 要望事項があれば、書いてください。

⑧ 「指導講話」の内容・方法に満足していますか。
 (ア はい イ いいえ ウ どちらともいえない)
 ※ 要望事項があれば、書いてください。

⑨ 教育実習(筆地授業)の回数は適切でしたが。
 (ア はい イ いいえ ウ どちらともいえない)
 ※ 要望事項があれば、書いてください。

⑩ 上の「⑨」で「イ」「え」を選ばれた方は、具体的に、どのくらいの回数が妥当だと考えますか。
 ()コマ()課()日以上()以下()

⑪ 教育実習(筆地授業)について、本校教諭の指導は十分でしたが。
 (ア はい イ いいえ ウ どちらともいえない)
 ※ 要望事項があれば、書いてください。

⑫ 毎日の学級反省会の内容・方法に満足していますか。
 (ア はい イ いいえ ウ どちらともいえない)
 ※ 要望事項があれば、書いてください。

⑬ 授業反省会の内容・方法に満足していますか。
 (ア はい イ いいえ ウ どちらともいえない)
 ※ 要望事項があれば、書いてください。

⑭ 教育実習に関わる機材・設備(教室・授業・更衣室・印刷コピー機、等)は十分でしたが。
 (ア はい イ いいえ ウ どちらともいえない)
 ※ 要望事項があれば、書いてください。

⑮ 教育実習の条件整備に関して、特に困ったことがあれば記述してください。
 ① 上記の質問事項で取り上げていないことで、何か気づいたことがあれば、自由に書いてください。(例えば、対面式、開始式、クラス長・教員長(副教員長)の役割、昇降について、等)

3 以下の項目は、番号に○をしてください。(複数回答可)

① 教育実習において、特に学べたものは何ですか。
 1 教科指導 2 学級経営(掃除も含む) 3 生徒指導
 4 遠征教育 5 委員会活動 6 学校経営 7 児童理解
 8 その他()

② 教科指導において、特に学べたものは何ですか。
 1 カリキュラムについて 2 指導方法について 3 評価について
 4 児童理解について 5 教科教育の目的論について
 6 教材研究の方法 7 指導案の書き方
 8 その他()

③ 教育実習において、特に学べた教科は何ですか。
 1 国語 2 社会 3 音楽 4 理科 5 生活
 6 音楽 7 道徳 8 家庭 9 体育

④ 学級経営において、特に学べたものは何ですか。
 1 子どもとの接し方(子どものほめ方・しかり方)
 2 朝の会・席の会の運営方法 3 給食の方法
 4 掃除の方法 5 その他()

4 3以外に、教育実習をとおして感じたことがあれば記述してください。その他感想などを自由に記述してください。